



## チームは「たし算」？「かけ算」？

FIFA ワールドカップ 2026 が日本中を沸かせています。惜しくも敗退してしまったものの、最高の景色を目指したサムライブルーの選手たちが、数々の素晴らしいプレーを見せてくれました。日本代表がここまで強くなったのには、いろいろな理由があると思いますが、その一つに、近年多くの選手が海外のチームに在籍し、世界の中で戦っているからというものもあるでしょう。厳しい環境の中に身を置いて、高いレベルでプレーを続けるには、持って生まれた素質だけでなく多くの努力が必要だと思います。しかし、そうした経験が力となり、自信をもって海外の選手と渡り合えるのです。サッカーに限らず、様々な分野で世界に挑む人たちはすごいなあと思います。

サッカーで思い出したのですが、私が、学生時代に入っていたサッカー部の監督は、よく「サッカーはたし算ではない、かけ算だ。」と言っていました。どういう意味かと言うと、11人いるプレイヤーの持つ力を合わせたものがチームの力だとします。たし算だと、誰か一人の力が0でも、他の人が1ずつ力を出せば、チームの力はそれを足した10になります。しかし、かけ算で考えると、どれだけ他の人が2や3の力を発揮しても、誰か一人でも0だとチームの力は0になってしまうと言うのです。(低学年の人には、ちょっと難しい計算になりましたね。ごめんなさい。) サッカーは、コートにいる選手の一連の関わりでボールが動き、その流れの中で得点が生まれます。ボールを保持している選手だけでなく、持っていない人の動きが味方を生かし、ゴールへと導くのです。だから、全員で試合を作らないといけません。あと少しのタイミングであきらめてしまったり、疲れてサボってしまったりしては、そこまでつないできたボールが途切れてしまいます。攻撃だけでなく、守りにしても同じです。全員が全力を発揮することが大事なのです。当時私のいたチームは、学生リーグの弱小チームでした。個々の力だけでは到底勝つことができなかったため、チーム力を上げるためにも、監督がよくその言葉を口にしていたのだと思います。

では、学級や教職員集団も一つのチームだと考えて、学校に当てはめてみるとどうでしょう。私は、先ほどのかけ算理論はちょっと合わないような気がします。もちろん、全員が必ず1以上の力を発揮すれば、クラスのまとまりが良くなり学校の力は大きく伸びるでしょう。しかし、学校は、そんな人ばかりが集まっているわけではありません。子どもたちはもちろん、私たち教職員も、経験が違えば力量も様々です。学級では、子ども同士のトラブルで、時には0どころかマイナスになってしまうことだって起こります。でも、実際は、誰かが誰かの分を必ずカバーしてくれています。



だから、学校のチーム力は、かけ算ではなく、たし算ではないのかなと思うのです。そういえば、たし算の答えを「和」と言いますが、「和」という字には、調和やまとまりという意味がありますね。

もちろん個々の力がつくことが集団にとってもプラスになるので、頑張ることは大事です。しかし、すべての人がいつも全力を出し続けるのはちょっとしんどいように思います。それよりも、一人一人の持ち味を生かすチームになることのほうが、大事かもしれません。

サッカーでもドリブルが得意な選手やヘディングが得意な選手などがいるように、子どもたちのよさを伸ばし、教職員の得意を生かすことができれば、もっともって素晴らしいチームになるような気がします。そして、誰かが頑張れない日には、誰かが支え、また別の日には支えられる。そんなチームの姿こそ、天王寺小学校らしいのではないのかなと考えています。

まもなく一学期が終わり、ハーフタイムというにはちょっと長い夏休みが始まります。試合の終わりはまだまだ先ですが、まずは一学期をしっかりと振り返り、後半に活かしてほしいと思います。

最後に、学期末を迎えるにあたり、たくさんの皆様のご理解とご協力をいただきましたことを深謝します。ありがとうございました。

## 暑さに備える

7月になると梅雨が明け、夏本番がやってきます。今年は5月のはじめから気温が高くなり、早々に熱中症への警戒が話題になりました。これから先、新たに名前の付いた40℃を超える「酷暑日」があるかもしれないと考えるだけで、今から汗が出てきそうな気がします。

その暑さ対策ですが、<sup>ちまた</sup>巷では、いろいろな熱中症対策グッズがあふれています。学校では、毎日水筒にお茶をたっぷり入れて持ってくること（昔と違って、水筒には氷を入れてもOKです。）や、こまめに水分補給することを、子どもたちに指導しています。外に出るときには、帽子をかぶることも忘れてはいけません。また、登下校時には、首元を冷やすネッククーラーや冷感タオルの使用も可能です。（必ず名前を書いてくださいね。）最近では、日傘を推奨する学校もあるようですが、本校は集団登校をしていることから、登校時に日傘をさすと他の子に当たってしまう可能性があります。禁止はしていませんが、そうした状況も踏まえて判断してください。（登下校中のけがについては、程度に応じて日本スポーツ振興センターの保険が適用されますが、学校の管理下ではありません。）禁止としているのは、電動ファンなどの冷却機器です。破損などのトラブルが絶対にあるので、これだけは自己責任ですからと言われてもお断りしています。

また、熱中症が心配なあまり、時々スポーツドリンクを持たせたいという申し出があるようです。多量の汗をかくような激しい運動をする場合は効果があるでしょうが、毎日お茶代わりに飲んで多量の糖分を取るのは逆に体によくありません。（ちなみに、小学校では、夏場にそこまで激しい運動はしません。）最近では、塩分タブレットなるものもありますね。学校で生活する上では必要ないと思うのですが、もしどうしてもという場合は、薬と同じ扱いで先生の指導の下に服用させたいと思います。こうした物は、大人が思っているほど子どもはきちんと管理できません。以前、酔い止めの薬を友だちにせがまれて渡してしまい、飲み過ぎた子が救急搬送されたことがありました。薬でさえそんな事が起こるのですから、塩分タブレットくらい…、なんて思う子がいても不思議ではありません。

こう書くと昭和の教育みたいにあれもダメこれもダメという感じもしますが、事情によっては個別に対応もしますので、まずはご相談ください。それよりも、暑さ対策には、毎日の睡眠や朝食をきちんと摂ることなど基本的な生活習慣が大前提であることを忘れてほいでほしいと思います。

